長岡地区租税教育推進協議会優秀賞

「納税」は「幸福への貯金」

長岡市立青葉台中学校
三年　牧原　智輝

「税金」つまり「租税」とは法律の定めに基づき、商売、所得、商品、取引等の行為や財産に対して、国や地方公共団体が国民から徴収する金銭のことです。僕は今まで、「税金」のことを考える機会は、それについての社会的に変動し、注目された時くらいで、殆どありませんでした。例えば最近では消費税を十パーセントに増税するという話を耳にしますが、僕には損をするように思えてなりませんでした。しかし、そのようなことはなく、社会的にとても大きな役割を担っているのです。その機能として主に四つあり、「公共サービスの費用調達」「所得の再分配」「経済への阻害効果」「景気の調整」があるそうです。これらは「日本」という国が成立するために必要です。

例えばデンマークという国は幸福度世界一と言われています。その理由は税金が高いからです。といいますと、僕からしてみれば、高額の税を払うことは、重税に苦しむように感じてしまいます。デンマークでは、消費税二十五パーセント。所得税においては四十から六十パーセントにもなるそうです。実に年収の三分の一以上が税金に持っていかれ、とにかく高額です。では、なぜ大きな負担を強いられながら、幸福度世界一なのでしょうか。その答えは、社会保障制度にありました。まず、教育費は大学まで無料という手厚さ。さらに、十八歳以上の学生には十万円近くの生活費が支給されるそうです。そして、医療費もほぼ無料です。交通費も無料。また介護費も無料です。これらの保障は全て税金で賄われているとすると、この高額納税も頷けます。国が税を沢山徴収し、国民へ平等に分け与えているのです。高税率であっても、これだけの社会保障で守られている国民は、安心して暮らすことができています。

そして日本は、ここまで確立された税制度ではないものの、例えば僕の使っている教科書、家から一歩出れば道路、僕達の安全を守ってくれる警察や消防。日々の生活の中で僕達は知らず知らずのうちに税の恩恵を受けているのです。これはとても有り難いことです。もし税制度が無ければ、個人で全て負担しなければならなく、今の生活を考えるとそれは不可能と言っても過言ではないと思います。

このように税について考えると、それは、互いが互いを助け合うみんなのためのお金。即ち「幸福への貯金」なのだと思います。

税金を払うことは決して損をすることではありません。僕自身が将来、働けるようになったとき、納税の大切さを深く受け止め、そうすることが、社会へ貢献している証なのだと思います。僕は、誰かの為に納税を出来ることを誇りに思えるような大人になりたいです。

日本の将来が明るく、幸福指数の高い社会になるよう、今は目の前の事に一生懸命になろうと思います。